

学校法人光華女子学園
京都光華女子大学短期大学部
機関別評価結果

平成 28 年 3 月 10 日
一般財団法人短期大学基準協会

京都光華女子大学短期大学部の概要

設置者 学校法人 光華女子学園
理事長 阿部 敏行
学 長 一郷 正道
A L O 相場 浩和
開設年月日 昭和 25 年 4 月 1 日
所在地 京都府京都市右京区西京極葛野町 38

設置学科及び入学定員（募集停止を除く）

学科	専攻	入学定員
ライフデザイン学科		100
	合計	100

専攻科及び入学定員（募集停止を除く）

なし

通信教育及び入学定員（募集停止を除く）

なし

機関別評価結果

京都光華女子大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 28 年 3 月 10 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 26 年 7 月 10 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該学校法人は、東本願寺の故大谷智子裏方の発願により「仏教精神による女子教育」を建学の精神として昭和 14 年に設立された光華女子学園を始まりとし、当該短期大学は、昭和 25 年に設立された。建学の精神については、リーフレット『建学の精神』と教育方針」を教職員の必携とし、学生には様々な行事や学習機会を通して浸透を図っている。教育理念として、「社会人として自立した女性」、「智慧と学芸を身に付けた女性」、「『いのち』を慈しむ心を持った女性」の育成を掲げている。学習成果の査定は、学期末評価や成績の GPA 分布調査のほか、個々の学生が達成感ポートフォリオを用い自己評価するシステムを取り入れている。平成 22 年度に自己点検・評価の結果を FD の中に組み入れるために、委員会を「FD・自己点検評価委員会」へと改組し、全学委員会もその役割を IR に基づくエンrollmentマネジメントとして広くとらえ直し、「EM・IR 会議」へと改組し、積極的に活動している。

学位授与の方針は、学科ごとに示し、ウェブサイト等に広く周知している。学科の教育課程は、学位授与の方針に基づき適切に編成されている。学習成果については、両学科とも実践的な科目を多く取り入れ、また資格取得も奨励し、一定の成果をあげている。学生の卒業後評価への取り組みについては、卒業時に 2 年間の教育に対する学生の評価をアンケート形式で調査、集計を行っている。学生が学期ごとに学習目標を立て、学期終了時に自己評価を行う「学期ポートフォリオ」を実施しており、クラスアドバイザーは学生の自己評価にコメントすることで、学生の学習成果を把握している。学習支援体制については、クラスアドバイザーや学科共通の職員等の相談体制も整備され、学生サポートセンター内の学習ステーションには、スチューデント・アシスタント (SA)・ティーチング・アシスタント (TA) が配置されている。学生の生活支援、進路支援については、組織的な連携が図られている。入学者受け入れの方針については明確に示され、多様な選抜方法が実施されている。入学前後のオリエンテーション活動では、在学生在が入学者に対する支援に主体的に参加している。

専任教員数、教授数はいずれも短期大学設置基準を充足している。教員の採用、任用等は、京都光華女子大学短期大学部教員資格審査基準に基づき、厳正に審査され、適格に行われている。専任教員の教育研究活動については、各種助成金等の支援体制も整えられ、その成果は研究紀要にて公表している。FD活動の重要性も意識され、FD講演会やFDフォーラム等を通じ、教育研究活動の向上に努めている。また、人事管理は規程に基づき適切に行われている。校地・校舎面積は、いずれも短期大学設置基準を満たしており、施設、機器備品、IT環境も十分に整備され、有効に活用されている。省エネルギーや環境教育、環境保全活動にも積極的である。耐震改修や防火・防災訓練等が計画的に実施され、セキュリティ対策についても整備、管理がなされている。余裕資金はあるものの、学校法人全体では過去3か年、短期大学部門では過去2か年支出超過となっている。教育研究経費比率は適正で、施設設備への資金配分も適切になされている。

理事長は、建学の精神の具現化、教育の改革・充実に向け、リーダーシップを発揮し、学校法人の発展に寄与している。理事会は、寄附行為に基づき適切に運営され、理事は、寄附行為に従い選任されている。学長は、主要な教学運営体制として、大学運営会議、全学代議会、短期大学部教授会を統括し、教学運営のリーダーとしての役割を果たしている。監事は、理事会及び常任理事会、評議員会等で意見を述べるほか、業務及び財産の状況について監査を行うなど、職務を遂行している。評議員会は、理事長の諮問機関として寄附行為に基づき運営されている。事業計画及び予算編成は、中期予算計画に基づき決定し、速やかに関係部署へ通知され、適切に執行されている。理事長は、事業計画、予算に基づく次年度の経営方針を全教職員に対し説明し、理解と共有に努めている。資産運用は、資産運用規程に基づき企画財務部において行われ、財務担当理事及び理事長、理事会へ報告されている。財務情報は、教育情報とともにウェブサイトにて公開・公表されている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質保証を図り、短期大学の主体的な改革・改善を支援することにある。そのため、本協会では、短期大学評価基準に従って判定される前述の「機関別評価結果」や後述の「基準別評価結果」に加えて、当該短期大学の個性を尊重し、その向上・充実に資する観点から以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

本協会は当該短期大学の以下の事項について、高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らし、優れた成果をあげている試みや特長的な試みと考える。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマA 教育課程]

- 平成26年度の「大学教育再生加速プログラム」に採択されており、アクティブ・ラーニングの活性化、学習成果の可視化を推進し、さらに正課外アクティビティ科目の充実、ALM（アクティブ・ラーニング・マスター）やSAの活用、ミドルレベル・ディプロマ・ポリシー（各専門分野のディプロマ・ポリシー）の設定、ナンバリング制やミッ

ドタム・スチューデント・フィードバック法の導入など、教育の改善・充実に向けた様々な取り組みがなされている。

[テーマ B 学生支援]

- 履修登録からレポートの書き方まで学びを総合的に支援する場所である「学習ステーション」や、学生の自主的な学習を促進し活性化することを目的とした「学科コモンズ」を開設し、SA・TAの配置、PC機器の設置など物的・人的な支援環境が整備されている。
- プレゼンテーション科目を中心に、PBL（課題解決）型学習の展開により社会人基礎力の育成に努め、平成26年度には「社会人基礎力育成グランプリ2014」全国大会で準大賞を受賞している。
- 自己点検評価委員会をFD・自己点検評価委員会に改め、さらには併設大学と合同の「EM（エンロール・マネジメント）・IR（インスティテューショナル・リサーチ）会議」、「EM・IR部」を設置し、学生の支援を組織的に行っている。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

[テーマ B 物的資源]

- 屋上庭園「HIKARU-COURT」を設置し、学生と教職員混成で編成されるグリーンキーパーにより維持管理を行い、環境教育にも活用している。また、ライフデザイン学科では正課の授業にも活用している。そのほか太陽光発電システムやエネルギー計測システムの導入等、学園をあげて環境教育や環境保全活動に取り組んでいる。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は以下に示す事項について、当該短期大学が改善を図り、その教育研究活動などの更なる向上・充実に努めることを期待する。なお、本欄の記載事項は、各基準の評価結果（合・否）と連動するものではない。

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

[テーマ A 建学の精神]

- 建学の精神は、ウェブサイトや大学案内、学生生活のてびき、リーフレット「『建学の精神』と教育方針」など多くの媒体を通して教職員及び学生への共有、理解の深化に努めているが、媒体や記載される箇所により、異なる説明や表現が散見されることから、説明や表現方法の統一に努められたい。

[テーマ B 教育の効果]

- 学位授与の方針と学習成果が混同されているので、教育目的・目標を踏まえた学科の学習成果を明確にする必要がある。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ A 教育課程]

- 教育課程編成・実施の方針とカリキュラムマップが混同されているので、教育課程の編成や授業科目の内容及び教育方法についての基本的な考え方を教育課程編成・実施の方針として明確に示す必要がある。
- シラバスは、前回の第三者評価（平成 20 年度）で指摘を受け改善が図られたが、未だ記述が不十分な授業科目があり、不統一もみられる。また、一部の科目で 15 回目に定期試験が組まれており、1 単位あたり 15 時間の授業を確保するよう、更なる改善が望まれる。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

[テーマ A 人的資源]

- SD については、学内外の研修に参加するなど SD 活動を行っているが、SD に関する規程の整備が望まれる。

[テーマ D 財的資源]

- 学校法人全体では過去 3 か年、短期大学部門では過去 2 か年支出超過となっている。中期予算計画である GAIN-11 5 ヶ年の概要に基づく取り組みを着実に実行し、財務体質の改善に努められたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 基準別評価結果

以下に、各基準の評価結果（合・否）及び当該基準を合又は否と判定するに至った事由を示す。

基準	評価結果
基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果	合
基準Ⅱ 教育課程と学生支援	合
基準Ⅲ 教育資源と財的資源	合
基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス	合

各基準の評価

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

当該短期大学は、昭和 14 年に東本願寺の故大谷智子裏方の発願によって設立された光華女子学園を始まりとし、親鸞の教えに基づく「仏教精神による女子教育」を建学の精神としている。この精神は「真実心」、「慈悲心」を核心とするものであり、現代的に表現するなら「他者の心を思いやる」ということで、相手の立場に立ってのコミュニケーション能力ということに通じるとされる。建学の精神については、リーフレット『『建学の精神』と教育方針』を教職員の必携とし、5 次にわたって改訂している。学生に対しては、1 年次に置かれた必修科目や学校行事、学内刊行物等を通して周知が図られている。なお、建学の精神は、ウェブサイトや大学案内、学生生活のてびき、リーフレット『『建学の精神』と教育方針』など多くの媒体を通して教職員及び学生への共有、理解の深化に努めているが、媒体や記載される箇所により、その説明や表現が異なっており、表記等の統一に努められたい。

教育理念として「社会人として自立した女性」、「智慧と学芸を身に付けた女性」、「『いのち』を慈しむ心を持った女性」の育成を掲げ、この教育理念と建学の精神の下、地域総合科学科であるライフデザイン学科、こども保育学科それぞれの学科の特性に合わせて教育目的を定めている。各学科の教育目的については、教育課程編成時の検討を中心に、FD・自己点検評価委員会の活動を通して改善に取り組んでいる。

各科目の学習成果はカリキュラムマップとシラバスによって学生に示されている。学習成果の査定として、学期末評価のほか成績の GPA 分布調査や卒業生に対するアンケート調査、さらに学生自身が学期末に達成感ポートフォリオを用い、履修科目の到達目標に対する達成度を 6 段階で自己評価するシステムを取り入れている。教員はその結果を学習成果の向上・充実に役立てている。科目の学習成果については、期末試験による評価に加え、受講態度、レポート、課題提出などを総合的に判定する方法をとっている。また、GPA を学生に提示するほか、専任教員は学生による授業評価を含む教員評価票を作成し、自己評価を行い、教育方法や成績評価、課外での学生指導等について改善を図っている。なお、学位授与の方針と学習成果が混同されているので、教育目的・目標を踏まえた学科の学習成果を明確にされたい。

自己点検・評価の結果を教育改革等の PDCA サイクルの中に組み込むことを目的に、平成 22 年度から自己点検評価委員会を FD・自己点検評価委員会に改め、さらに併設大学と

合同の「EM・IR 会議」、「EM・IR 部」を設置し、自己点検・評価の PDCA サイクルを機能させている。自己点検・評価報告書は定期的に作成され、活動には全教職員が関与し、教育プログラムの改善に役立つよう努力している。また、平成 24 年度には比治山大学短期大学部との短期大学間相互評価を実施している。

なお、こども保育学科は平成 27 年度より学生募集を停止している。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

学位授与の方針は、学科ごとに示され、ウェブサイト等で周知されている。卒業の要件、成績評価の基準、資格取得の要件はシラバスによって示されている。学科の教育課程は、学位授与の方針に基づき適切に編成されている。それぞれの科目については、科目の主題、到達目標、学位授与の方針との関連についてカリキュラムマップに示され、ウェブサイトでも公表されている。なお、教育課程編成・実施の方針とカリキュラムマップが混同されているので、教育課程の編成や授業科目の内容及び教育方法についての基本的な考え方を教育課程編成・実施の方針として明確に示されたい。シラバスは、前回の第三者評価後、改善が図られたが、未だ記述に不十分さと不統一がみられ、15 回目に定期試験が組まれている科目もあるので、更なる改善が望まれる。入学者受け入れの方針は受験生に求める能力・意欲・適性・経験を明示しており、入学試験要項やウェブサイトに掲載している。

学習成果については、両学科とも実践的な科目を多く取り入れ、また資格取得も奨励し、一定の成果をあげている。学生の卒業後評価への取り組みについては、卒業時に 2 年間の教育に対する学生の評価をアンケート形式で調査、集計を行っている。なお、卒業生の就職先への聴取については、課題としているように、組織的な実施や教育課程へのフィードバックが望まれる。

学生が学期ごとに学習目標を立て、学期終了時に自己評価を行う「学期ポートフォリオ」を実施しており、クラスアドバイザーは学生の自己評価にコメントすることで、学生の学習成果を把握している。学期ごとに実施される授業評価等の集計報告を受け、教員は授業の充実改善、学生の満足度の向上に努めている。学科コモンズや学習ステーションを開設し、それぞれに専任職員を配置するなど学生の学習成果獲得に向けた人的資源、物的資源ともに整備され、活用されている。

学習支援体制については、クラスアドバイザーや学科コモンズの職員等の相談体制が整備され、さらに学生サポートセンター内の学習ステーションには SA や TA の配置も行っている。生活支援については、クラスアドバイザーや学生生活委員会が教職協働で実施している。健康相談やメンタルケアについては、学生相談室や保健室、また学校医や臨床心理士、精神科医等の専門家が対応し、学生サポートセンターには社会福祉士有資格者が配置されている。学生の経済的支援は、独自の奨学金制度や減免制度、延納制度等、支援体制が整っている。進路支援に当たっては、キャリアセンターや学生生活委員会、キャリア教育推進連絡会に加え、学科独自の教員組織も整備されている。インターンシップ等により就労意識の醸成を図るとともに、資格取得支援や社会人基礎力演習等の活用により社会人基礎力の養成へつないでいる。

入学者受け入れの方針は明確に示され、入試広報部によって広報及び入試事務が適切に

なされている。多様な入学者選抜が実施され、AO入試、内部推薦入試、指定校推薦入試、社会人入試では面接を課し、入学者受け入れの方針に適合する生徒であるかどうかを確認している。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

専任教員数、教授数はいずれも短期大学設置基準を満たし、教員組織が適切に編成されている。教員の採用、昇任に当たっては、京都光華女子大学短期大学部教員資格審査基準に基づき厳正に審査され、非常勤教員においても学長の面接により適格性が確認されている。

教育研究活動については、教員個々の研究計画に基づき支給される個人研究費のほか、在外研究助成や国内研究助成、学術刊行物出版助成等の制度を設け、学会発表補助、学部研究助成も加え手厚い支援体制が整えられ、その成果は研究紀要に公表されている。研究紀要は電子化され、国立情報学研究所の提供する「CiNii」、「WEKO」を通じてウェブサイトで開催されている。FD活動の重要性も意識され、FD講演会やFDフォーラム等を通じ、教育研究活動の向上に努めている。

事務組織は、関係諸規程に基づき組織され、学生の利便性に配慮した部局の配置がなされている。職員の資質向上については、学内外の多様な研修会等を通じ、学生の学習成果の獲得に寄与できるようSD活動を実施しているが、さらにSDに関する規程の整備が望まれる。就業規則や育児休業、介護休業に関する規程等は、学園運営部により整備・運用されている。人事管理については、教員の採用や昇任は教員資格審査基準、職員は人事評価に基づき適切に行われており、有期雇用契約の制度も整備されている。

校地・校舎面積は、いずれも短期大学設置基準を満たしている。講義室のほか、各種実験実習室や情報処理学習室、アクティブ・ラーニングスペースを含む図書館、体育館等の施設、機器備品や図書資料も十分に整備されている。学科コモンズや学習ステーション、3か所の食堂、学生も参画するカフェ等も整備され、有効に活用されている。

固定資産、物品等の管理に関する規程により、施設設備や財産管理等が適切に行われている。高効率型照明器具や太陽光発電システムの導入、屋上庭園の設置など省エネルギーや環境教育、環境保全活動を積極的に推進している。耐震改修や防火・防災訓練等は計画的に実施されている。IT環境はハードウェア、ソフトウェアともに十分整備され、学内全域に有線、無線によりLANが整備されている。セキュリティ対策は適切になされており、物的資源は適切に整備、管理されている。

予算編成は中期予算計画に基づき編成され、適切に執行されている。教育研究経費比率は適正で、施設設備への資金配分も適切になされている。退職給与引当金の計上や特定資産の積み立てなど、資産の保全は適切に行われている。余裕資金はあるものの、学校法人全体では過去3か年、短期大学部門では過去2か年支出超過となっており、中期予算計画であるGAIN-115か年の概要に基づく取り組みを着実に実行し、財務体質の改善に努められたい。資産運用は、資産運用規程に基づき実施している。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

理事長は、建学の精神の具現化に向け、教育改革、その充実に向けてリーダーシップを発揮し、学校法人を代表して業務を総理し、学校法人の発展に寄与している。理事は、寄附行為に基づき選任されており、理事会は理事長が召集し、議長となり学校法人の重要事項を審議、決定している。

学長は、京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部学長選出規程に基づき選任され、教学運営組織である大学運営会議、全学代議会を統括するとともに短期大学部教授会を適切に運営し、教学運営リーダーとしての役割を果たしている。また、京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部副学長規程に基づき副学長が選出され、学長補佐体制も敷かれている。

監事は、理事会及び常任理事会、評議員会に出席し意見を述べるとともに、寄附行為に基づき、学校法人の業務及び財産の状況について監査を行っており、監事の職務を遂行している。公認会計士、内部監査室との三様の監査を行い、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後2か月以内に理事会及び評議員会へ提出している。

評議員は、寄附行為に基づき適切に選任されている。評議員会は、予算、教学、学校法人運営等の重要事項について理事長からの諮問に対し意見を述べ、適切に運営されている。なお、今後の運営において評議員の出席率の向上に努められたい。

事業計画及び予算編成は、中期予算計画に基づき決定し、決定後は速やかに関係部署へ通知され、適切に執行されている。執行状況は適宜報告されているが、月次試算表の作成による報告が必要である。理事長は、事業計画、予算に基づく次年度の経営方針を全教職員に対し説明し、その理解と共有に努めている。資産の運用については、資産運用規程に基づき企画財務部において行われ、財務担当理事及び理事長、理事会へ報告されている。財務関連書類は、利害関係者からの閲覧請求に対応できるよう常備されている。財務情報は、教育情報とともにウェブサイトにて公開・公表されている。

選択的評価結果

本協会は、短期大学の個性を伸長させることを目的として、「教養教育の取り組み」、「職業教育の取り組み」、「地域貢献の取り組み」という三つの選択的評価基準を設けている。これらの三つの取り組みは4基準にも含まれているが、各短期大学の取り組みの特色がより鮮明になるよう、4基準とは別に設定した。

選択的評価は個々の短期大学の希望に応じて実施し、課外活動も含め、それぞれの独自性が一層発揮されるよう当該短期大学の取り組みの達成状況等について評価を行った。

教養教育の取り組みについて

総評

ライフデザイン学科では、「自分の将来を具体的に構想し、その実現のための自覚的な学習を通じ、自らの言葉で明確に説明する豊かなコミュニケーション力を備え、実際の生活において課題設定・情報収集・課題解決を可能とする実践的な社会人としての能力を身につけた人材を育成する」ことを目的とし、社会人として基礎的な教養を身に付ける課程としてライフデザイン・スタンダードを設けている。建学の精神を学ぶ「仏教の人間観Ⅰ」、自らのライフデザインを学ぶ「ライフデザイン総論Ⅰ・Ⅱ」、思考力や表現力を養う「プレゼンテーション概論」、「プレゼンテーション演習Ⅰ・Ⅱ」、社会教養を高める「時事問題」、「環境問題」のほか、グローバルな教養分野、女性学分野、情報学分野など幅広い教養が身に付けられるように科目を設定している。「ライフデザイン総論Ⅰ」は、専任教員によるクラスアドバイザーが担任となって、2年間にどのような学びをしていくかを指導するなど、各学生のニーズや能力、志向を踏まえたきめ細かな指導を行っている。また、プレゼンテーション系の科目を中心にPBL（課題解決）型学習を行い「社会人基礎力」の育成に努めており、その成果として、経済産業省が共催する「社会人基礎力育成グランプリ 2014」全国大会では準大賞を受賞している。

こども保育学科では、「子どもの豊かな可能性を育むために必要とされる洞察力や感性」、「子育て支援を担える力」を備えた保育者を育成することを教養教育の目的とし、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得のために必要な教養科目のほか、建学の精神ともかかわる「仏教学Ⅰ」や「京都の文化と芸術」、「国語教育入門（正しい日本語）」など独自の科目を開設している。保育者となることを想定し、保育上の必要に応えるべく知的裾野を広げるためのアクティブ・ラーニングを取り入れ、主体的な学びを促進している。

教養教育の効果については、両学科共に組織的に評価は行っていないが、ライフデザイン学科では科目共通での評価を、またこども保育学科では、各担当者が課題提出や期末試験を通じて測定・評価している。

当該短期大学の特色が表れている取り組み

○ ライフデザイン学科では、プレゼンテーション系の科目を中心にPBL型の学習を展開し、社会人基礎力の養成に努めており、その成果として、「社会人基礎力育成グラン

プリ 2014」全国大会では準大賞を受賞している。

職業教育の取り組みについて

総評

ライフデザイン学科は、社会人基礎力を養うための「ライフデザイン・スタンダード」と、直接的に職業に結び付く専門的な力を養うための「ライフデザイン・プロフェッショナル」により教育課程を編成し、教育を展開している。

ライフデザイン・スタンダードでは、20 単位を必修科目、さらに 10 単位を選択必修科目とし、基礎的な教養を身に付けることを目的としている。また、ライフデザイン・プロフェッショナルでは、五つの系（専門分野）から教育課程が編成され、各分野には実務経験を有する専任教員が配置されており、より専門性を高めることを目的としている。こうした教育課程編成、教員配置に加え、丁寧な履修指導やクラスアドバイザー、キャリアセンター等の支援により、平成 26 年度卒業生の就職率も高い実績をあげている。さらに、就職に有効な資格取得や検定の対策講座も多数設定され、就職支援体制が整えられている。

一方、こども保育学科は、幼稚園教諭及び保育士の養成を主たる目的とした学科であり、学科の専門教育が職業教育ともいえる。観察実習から教育実習、保育実習に施設実習、実践演習など法令で定められた実習・演習科目に加え、教育実習受け入れ園との懇談会、卒業生の就職後の状況確認、幼稚園協会や保育所協会との懇談会等を通して当該短期大学での幼稚園教諭及び保育士養成に対する評価を聴取している。また、実習終了後のまとめ、反省に当たり、実習園の園長を招き、直接指導を受けるなど学科での幼稚園教諭及び保育士養成教育の向上に役立てている。

なお、前回の第三者評価で指摘を受けた社会人学生の受け入れについて、学習支援体制の整備に取り組んできたが、既修得単位の認定にとどまっている。このような状況を改善するためにも、公開講座や地域貢献活動を生かした学び直しの場の整備など検討されたい。

地域貢献の取り組みについて

総評

学園の地域連携推進センターにより、公開講座、教養講座共に開催され、広報活動が行われている。なかでも平成 24 年度の公開授業では、中学生を対象とした中学生大学見学会公開授業を開催している。中学生が保育実習室で授業を体験するこの取り組みは珍しく、今後、継続して実施し、学園が有する教育分野を拡大させ、地域貢献として特色ある取り組みとなることが期待される。

公開講座は、短期大学としては両学科とも年 1 回の開催となっているが、さらに学園として「光華講座」が開かれており、仏教に関する一般向けの講演会となっている。今後、高齢化社会がますます進展することを考慮し、より広い分野を含んだ教養講座や、正規授業の一部受講なども検討課題としている。

地域社会との連携は、重要な学びの場であるとの認識から、地元の京都市右京区役所との地域連携事業、大学コンソーシアム京都が推進する事業へ積極的に参加している。とりわけライフデザイン学科における「鹿ミーツ有効利用プロジェクト」では、学生と教員が協力した連携体制を取っている。学生の主体性向上の一環として、学生 FD 活動を行い学生リーダーの養成に取り組んでいる点は、今後の成果が期待される。また、こども保育学科においては「光華こどもひろば」を月に複数回実施しており、地域の乳幼児と保護者に広く開放されている。立場の異なる者がかかわり、双方向にメリットをもたらしている。このほか、環境ボランティアサークル「グリーンキーパー」の活動、「右京区ふれあいフェスティバル」での子ども向けコーナーの開設、「右京区サンサにこにこひろば」での遊びコーナーの開設、「葛野児童館まつり」など、教員・学生が協力し、積極的に地域貢献活動を行っている。今後、地域社会のニーズに合致した企画・活動を通して、学生が主体的に地域貢献に取り組むシステム作りが期待される。また、京都マラソンでは、教員と当該短期大学・併設大学合わせて約 100 名の学生が給水ボランティアとして参加しており、スポーツに注力している「京都光華」をアピールできる地域貢献活動となっている。

当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 「鹿ミーツ有効利用プロジェクト」や「もみじプロジェクト」は地域に根差した活動である。ほかの都道府県で同様の取り組みを行っている自治体等との連携を図ることができれば、プロジェクトのより効果的な展開が期待できる。
- 「光華こどもひろば」を月に複数回実施しており、地域の乳幼児と保護者に広く開放されている。立場の異なる者がかかわり、双方向にメリットをもたらしている。
- 京都マラソンボランティアは、全国大会出場の駅伝をはじめ陸上競技の実業団クラブである「京都光華 AC」の設置など、スポーツに注力している「京都光華」をアピールできる地域貢献活動となっている。